

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (1階すずらん)	評価実施年月日	H19年9月1日
評価実施構成員氏名	宮沢・井浦・田中由・田中貴・高橋・小川		
記録者氏名	綿谷	記録年月日	H19年9月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念、愛の家川沿独自のものを、地域密着型の意義を確認した上で何回も話し合いスタッフ全員で決めました。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼で会社の理念と、ホームの理念の唱和によりスタッフ1人1人が意識をして日々のケアに生かしています。又、ユニット理念はユニット会議の中で共有し、理念の実践に努めています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所内の見やすい場所に掲示したり、運営推進会議や日々の家族の面会時など、家族や地域の人々と話し合う機会を設け理解を呼びかけています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩中などはもちろん、スタッフだけの時でも積極的に挨拶を交わしたり、立ち話をしたりしています。回覧版の受け渡し、お花や野菜や果物の物々交換も日常的に行っています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティアの方が開設当初から毎月定期的にくてくれたり、地域の中学生が気軽に立ち寄ってくれ、今は定期的な訪問により交流ができています。又、少しずつ地域の行事などに参加しています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的に地域の研修に参加し、自己のスキルアップを図りながら、高齢者の暮らしについて考え話あっています。		地域の行事に参加したり、出て行くことで見えてくるものもあると思うので、少しずつ機会を増やしていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価後、ユニット会議で具体案や実践につなげられるよう話し合っています。具体的にはホーム独自の理念を明示し毎日確認したり、緊急時対応できるよう救命救急講習を受けたり、色々な書類をスタッフ全員が共有できるよう回覧方式に工夫したり、食器を陶器に少しずつつかえたり、地域とのかかわりを増やしたりなど努力しています。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ホームの取り組みやケアについても報告し、参加者からの意見や要望を聞いた上で、スタッフ会議の中で議題としてあげ、サービスの向上につなげています。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア連絡会に参加したり、市の職員が行う研修などにも積極的に参加し、情報を得たものはケアに生かせるようスタッフ間での共有もし、取り組んでいます。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度について、勉強会や研修やスタッフ会議などで積極的に話し合い、ケアの質の向上やスキルアップに努力し、必要な人には活用できる体制にしています。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会やスタッフ会議で積極的に学び、発見した場合の対処方法やスタッフの精神状態の安定を図れよう話し合って周知しています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学や入居相談を始め、実際の契約時にも事業所のケアに関する考え方や取り組み、ご利用者の状態変化により退去になった場合等、ご利用者やご家族が不安にならないよう十分な時間をかけ説明し、理解を深めるよう取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃のコミュニケーションをとる中で、ご利用者の不安や不満、意見等をすぐにキャッチし特定のスタッフの中だけにうれさせないよう、ユニット内で随時話し合えるような体制作りを行っています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回のホーム便りやご家族1人1人に個別にもお手紙で報告し、面会時にもその都度積極的にご利用者の様子や体調について報告しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	なかなか不満や苦情となると話しづらい気持ちに配慮し、日頃のコミュニケーションの中からくみ取るよう努め、玄関前に意見箱を設置し、気軽に書いて頂けるよう目につきやすい所に設置しています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見を聞き入れたり、月1回のスタッフ会議、リーダー会議にて情報の伝達や意見交換などし、少しずつ対応している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションにより、さまざまな状況に対応できるような勤務体制を整えています。又、管理者を通常シフトにいれず、ご利用者の状態の変化に応じ、夜間も含め柔軟な対応ができる体制にしています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットのスタッフを固定にし、顔馴染みのスタッフが対応にあたっています。やむをえなく異動や離職がある場合は、引継ぎの期間を長くおき、ご利用者になじめるよう人数を多くして、ご利用者やご家族に不安をあたえないよう、最善の努力をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	積極的に研修を受ける機会を設け、研修報告書を提出し全てのスタッフに回覧したり、ユニット会議で報告したり、共有しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	管理者、スタッフ共に研修や勉強会や会議などを通し、同業者とのネットワーク作りや交流、情報交換を大切にサービスの質の向上に励んでいます。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休憩時間が確保されており、時間内に終わる仕事を行っている。又、スタッフの悩みや相談などできる環境になっており、人間関係を把握するよう努めている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	事業者内で毎月介護の月刊誌を購入したり、研修の機会を増やしたり、スタッフの資格取得の支援を行い、取得後職場内で活かせる環境作りに努めています。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が求めているものを理解し、これまでのご家族の苦労や経緯、ご本人の心身の状態や不安や希望などゆっくり話を聞くよう努めています。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	困っていること、不安なことなどすぐに対応できることはすぐ実行し、できないことや困難なことは、スタッフ全員で話し合いホームとしてどんなことができるか方策を考えております。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントに基づき、ご本人やご家族の話を伺いながら状況等を確認し、支援の提案や相談をくり帰し必要に応じたサービスにつなげるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にもできる限りホームの見学にきて頂き、雰囲気など感じてもらい納得してから利用してもらうように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活暦やご本人にとって大切な経験や出来事などを知り、過去の経験を生かしたケアを行いスタッフ間でも共有しております。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時は積極的に話す時間を作り、気軽に相談していただけるよう努め、ご家族と同じ想いで支援できる方法を考え実践しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時居室でご本人と一緒に食事を召し上げて頂いたり、行事の際には一緒に参加していただいたり、面会の少ない方には手紙や電話などで日々の暮らしを伝えるなど、よりよい関係の継続に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人にとって馴染みのご家族や、地域的にも馴染みの場所への外出など、個人の生活習慣を尊重して支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一緒に外出したり、レクや行事を楽しめる時間を作ったり、共有スペースで入居者同士がコミュニケーションとったり、ご利用者の心身の変化も見ながら、ご利用者が孤立しないよう配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても、定期的な連絡や訪問をさせて頂いたり、ご家族より相談あった場合は、ご利用者にとって1番良い方法を考えさせて頂いています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉や表情からその真意を見極めたり、さりげなく確認したり、意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得よう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントをとったり、ご利用者の話す会話の中やご家族からの情報など、スタッフで共有し把握に努めています。入居後も少しずつ聞くよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の過ごし方、体調や心理面の視点や、できることできないことなどご利用者の全体を把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃のご利用者とのかわりの中で、思いや意見を聞きアセスメントを含め、スタッフ全員での意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画の作成を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況や効果などを評価すると共に、スタッフがかかわる中でのご利用者の状態を客観的にとらえ、ご本人やご家族からの要望を取り入れ見直しを行っています。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事や水分量や排泄状況など身体状況のチェックや、いつもと違う言動やスタッフの気づきをケア日報や介護記録、連絡ノートなどで情報を共有し介護計画に生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心して暮らせるように、定期的な消防訓練や、ボランティアの方々によるレクリエーション等実施しています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望や体調に応じて訪問利用サービスや、近隣事業所の温泉保養所を利用したり、色々な機会を通じて他のサービスを利用したり、情報交換や話し合いもしています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が築かれてきています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力しあいながら通院介助など行っています。緊急時は夜間でも協力医と電話連絡で指示をいただくなど連携を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関が老人専門病院の医師であり、在宅や他施設なども多くかかわっているため、指示やアドバイスなど随時もらっています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの中に看護師が常勤しており、日頃の健康管理や状態の変化にもすぐ対応したり、日々情報の共有もできています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご利用者の状態や情報を医療機関に提供したり、スタッフが交代で見舞いに行ったり、直接医師や看護師やご家族と退院のめどや治療方法など相談する機会を作り、なるべく早く退院できるようアピールしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限できる支援方法を話し合っています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者やご家族の意向をふまえ、緊急時などはいつでも医療機関やご家族と連絡をとれるような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた場合は、アセスメントやケアプランを始めホームでの情報を伝えたり、スタッフが機会を作って訪問に行くなど、少しでも環境の変化が少なくなるよう努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄や着替えについては特に、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声かけやケアの徹底を図っており、スタッフ会議の中でも話しあったりすることで意識の向上も図っています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者がわかるように色々な方法を使って説明し、ご利用者が自ら選択ができるような場面作りをしています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その時のご利用者の考えや気持ちを尊重し、1人1人の状態や思いに配慮しながら対応しています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時はおしゃれができるようにご本人に選んでもらったり、悩んでいればさりげなくアドバイスをしています。又ご利用者の希望を前もって聞き、本人の望む美容師さんを選んだり訪問理美容を利用したりしています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>野菜切りや盛り付け、下膳や食器洗い等を一緒に行ったり、食事はスタッフとご利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>ご利用者の居室の冷蔵庫に好みの物をいれておき、自由に食べたり飲んだりできるようにしている。1人1人の好みの物はスタッフが把握しており、希望に沿いご利用者と一緒に買いに行く機会も作っております。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェックすることでその方の排泄パターンや習慣を把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声がけや支援をしています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>時間や日にちを決めず、いつでも入浴できることをご利用者にも伝えております。入浴があまり好きではないかたに対しては、声がけや対応の工夫、チーム全体で考え共有し、1人1人に合わせた支援に心がけています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>なるべく日中に活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めているが、ご利用者の希望など考慮し、ゆっくり休息がとれるよう支援しています。又、場合によってはゆっくりお話ししたり、温かい飲み物でリラックスして頂けるよう支援しています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>食事作りや掃除、体操や食事の号令をかけられるなど、その方の性格や生活歴に配慮した上での役割づくりを行い、趣味のマーじゃんや囲碁、外食やドライブや散歩など外の空気にふれる機会を多くとりいれています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族の協力を得てご利用者の希望でお金を持たせていたり、外出先では預かってあるご利用者の財布を渡し支払う機会を作ったりしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、ご利用者の希望と体調により散歩やドライブや買い物などを日常的に行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいと思う場所などご利用者の思いを聞き取り、実現するための方策をスタッフ全員で検討し、支援につなげています。外食や外出は、ご家族にも声をかけ一緒に楽しんでいただけるよう支援しています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合はいつでもご家族や友人に電話や手紙をだしたりしております。又、入居時にもご家族にご利用者が電話をかけることについてお話し、ご協力していただけるように努めています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	スタッフはいつも笑顔に心がけ、スタッフから話し掛けるよう努めています。又、遠慮なくご利用者とご家族だけでゆっくり過ごせられる時間にも配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	申し送りやスタッフ会議の時に話しあったり、ケアの振り返りを行い、スタッフの共通認識も図るよう努めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関に鍵をかけることなく、1階と2階のスタッフ同士が連携とり、見守りを強化しながら自由な暮らしを支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフはご利用者と同じ空間で一緒に過ごしたり、記録類を書いたりすることで、さりげなく全員の状況を把握するよう努めています。夜間も全体を見通せる場所にて見守り、定期的に入眠状況なども確認するよう徹底しております。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせて注意を促したり、保管したり、ケースに応じた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃より転倒や誤薬については対応策や予防策など話し合い共有しております。防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっとや事故報告書をもとに事故事例検討会議の実施もおこなっています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルは目のつく所にあり、周知されています。又、消防署の協力を得て、救命講習を少人数ずつ受けに行き、救急手当や蘇生についてなどを習得するようにしています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。非常時用の非常食も少しずつ確保しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、カンファレンスで話しあった内容なども含めて、家族に定期的に説明するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫内の整理を定期的に行い、古い食材がないか無駄なく使用できる工夫をしています。なお食器やふきんやまな板等を漂白し、シンクや調理器具の清潔に心がけている。買出しや発注は1～2日分ずつ行い、新鮮な食材を購入し使用するよう徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には座って靴をはけるように椅子を置き安全に配慮しています。入り口付近にはベンチを置き、プランターには花を植え、通学途中の中学生等が気軽に利用してくれています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	太陽の光が多く入る出窓や大きなベランダとなっており、季節感を肌で感じられています。又、季節にあった手作りの壁面装飾を取り入れたりなど、季節感を取り入れるよう工夫しています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにあるソファやテーブルの配置等、入居者の意見を取り入れ、少しでもゆっくりと自分の家のように感じていただけるよう工夫しております。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時や面会時に本人と家族が相談された使いなれた家具や食器、アルバムなど持ってきてこれ、それぞれのご利用者の生活スタイルに合わせられるよう配慮しています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の掃除の時に各居室や共用部分の窓を開け、換気に努めています。温度はご利用者の様子をみながらこまめに調節しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><del>毎日ある</del>            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族  <del>家族の2/3くらい</del>            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように  <del>数日に1回程度</del>            たまに            ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が ○ <u>職員の2/3くらいが</u> 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○ <u>利用者の2/3くらいが</u> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ○ <u>家族等の2/3くらいが</u> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)・家族との関係作りに力を入れてい  
ます。面会時や行事の参加など、声かけ多くし家族とも交流を図るよう働きかけています。・入居者様1人1人にあった個別での対応を重視  
しています。・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースが広くとれます。・事務や調理の専門職がいることで、おいしい食事を  
提供しております。・事故事例を全国のホームから取り寄せて、事故事例検討会を行うことで、リスクマネジメントを行っています。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (2Fはまなす)	評価実施年月日	H19年9月1日
評価実施構成員氏名	濱野・田村・尾方・竹本・佐藤		
記録者氏名	綿谷	記録年月日	H19年9月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念を何回も話し合いスタッフ全員で決めました。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼で会社の理念と、ホームの理念の唱和によりスタッフ1人1人が意識をして日々のケアに生かしています。又、ユニット理念はユニット会議の中で共有し、振り返りや反省や目標をたてています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や日々の家族の面会時など、家族や地域の人々と話し合う機会を設け理解を呼びかけています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩中などはもちろん、スタッフだけの時でも積極的に挨拶を交わしたり、立ち話をしたりしています。回覧版の受け渡し、お花や野菜や果物の物々交換も日常的に行っています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の中学生が気軽に立ち寄ってくれ、今は定期的な訪問により交流ができています。又、少しずつ地域の行事などに参加しています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的に地域の研修に参加し、自己のスキルアップを図りながら、高齢者の暮らしについて考え話あっています。		地域に出て行くことで、地域の高齢者の暮らしに役立つことを考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者の表情や言葉から思いをくみ取る努力をし、少しでも希望に添えるような支援を心がけ実行しています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	普段の面会時に随時報告しております。又、月1回のホーム便りやご家族1人1人に個別にもお手紙をだして報告しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関前に意見箱を設置し、気軽に書いて頂けるよう目につきやすい所に設置している。面会時にもご家族から何かないか、直接言って頂けるような働きかけをしています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度個別に意見を聞き入れたり、月1回のスタッフ会議、リーダー会議にて情報の伝達や意見交換などしています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションにより、さまざまな状況に対応できるような勤務体制を整えています。又、管理者を通常シフトにいれず、ご利用者の状態の変化に応じ、夜間も含め柔軟な対応ができる体制にしています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットのスタッフを固定にし、顔馴染みのスタッフが対応にあたっています。やむをえなく異動や離職がある場合は、引継ぎをできる限り行い、ご利用者やご家族に不安をあたえないよう、最善の努力をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内外問わず、さまざまな研修に参加できるようシフト調整を行い、研修報告書を提出し全てのスタッフに回覧したり、ユニット会議で報告したり、共有しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修や勉強会などを通じ、同業者とのネットワーク作りや交流、情報交換を大切にサービスの質の向上に励んでいます。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休憩室や休憩時間が確保されており、スタッフも悩みや相談などできる環境になっています。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	研修の機会を増やしたり、スタッフの資格取得の支援をしています。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	事前面談させていただき、心身の状態や不安や希望など話していただける時間を十分にとって、理解し受け止める努力をしています。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が求めていることを理解し受け止め、ホームとしてどんなことができるか事前に話し合っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や必要に応じたサービスにつなげるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にもできる限りホームの見学にきて頂き、雰囲気など感じてもらい納得してから利用してもらうように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ユニット理念にもかかわらず、常に支えあう関係作りに心がけています。日々の生活の上で人生の先輩であることをスタッフが共有しており、普段からご利用者に教えてもらう場面作りに配慮しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と話し合い不安や要望等を聞き、ご家族と同じ想いで支援できる方法を考え実践しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の状態を見てご家族を行事や外出に誘い、面会の少ない方には手紙や電話などで日々の暮らしを伝えるなど、よりよい関係の継続に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人にとって馴染みのご家族や、地域的にも馴染みの場所への外出や墓参りなど、個人の生活習慣を尊重して支援しています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ティータイムやレク活動などお誘いし、皆で集まれる時間を作ったり、共有スペースで入居者同士がコミュニケーションとれるような家具の配置を工夫したり、ご利用者が孤立しないよう配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても、定期的な連絡や訪問をさせて頂いたり、ご家族より相談あった場合は、ご利用者にとって1番良い方法を考えさせて頂いています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の言葉や表情に注意深く耳を傾け、その方の思いや心の内をさりげない会話などで確認しています。又、ご家族からも情報を得るようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で時間をかけてご本人とご家族からアセスメントをとり、スタッフで共有し把握に努めています。入居後も随時聞くよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者1人1人の生活リズムを大切に、言動の中から感じとり、ご本人の全体像を把握できるように努めています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃からご本人とご家族から思いや意見を聞き反映させるようにしている。スタッフ同士もモニタリングやカンファレンスを行い、意見交換や情報の共有により介護計画の作成を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人やご家族から要望を聞き取り、期間終了前に見直し、状態が変化したときはその都度検討し、見直しています。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事や水分量や排泄状況など身体状況のチェックや、いつもと違う言動やスタッフの気づきをケア日報や介護記録、連絡ノートなどで情報を共有し介護計画に生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心して暮らせるように、定期的な消防訓練や、ボランティアの方々によるレクリエーション等実施しています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望に応じて訪問利用サービスや、近隣事業所の温泉保養所を利用したり、色々な機会を通じて他のサービスを利用したり、情報交換や話し合いもしています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が築かれてきています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。協力医の往診は月2回あり、緊急時は夜間でも電話連絡で指示をいただくなど連携を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関が老人専門病院の医師であるため、指示や助言をもらっています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの中に看護師が常勤しており、日頃の健康管理や状態の変化にもすぐ対応したり、日々情報の共有もできています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご利用者の状態や情報を医療機関に提供したり、スタッフが交代で見舞いに行ったり、直接医師や看護師やご家族と退院のめどや治療方法など相談する機会を作り、なるべく早く退院できるようアピールしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限できる支援方法を話し合っています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者やご家族の意向をふまえ、緊急時などはいつでも医療機関やご家族と連絡をとれるような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた場合は、アセスメントやケアプランを始めホームでの情報を伝えたり、スタッフが機会を作って訪問に行くなど、少しでも環境の変化が少なくなるよう努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声かけやケアの徹底を図っており、スタッフ会議の中でも話しあったりすることで意識の向上も図っています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者がわかるように色々な方法を使って説明し、スタッフの考えを押し付けるのではなく選択ができるよう、自分で決めてもらうような場面を作っています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その時のご利用者の考えや気持ちを尊重し、できるだけ個別で接し、真意をくみとりながら支援しています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者の希望を前もって聞き、本人の望む美容師さんを選んだり訪問理美容を利用したり、スタッフも一緒にお化粧品も楽しんだりしています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>畑の収穫を楽しみ、食卓に並べたり盛り付けや下膳を一緒に行っており、食事はスタッフもご利用者と一緒に食べています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>1人1人の好みの物を把握しており、楽しんでもらえるよう希望に沿い買っています。おやつや飲み物等はご利用者と一緒に買いに行ったりもしています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェックすることでその方の排泄パターンや習慣を把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声がけや支援をしています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>いつでも入浴できることをご利用者にも伝え、ポスターでも呼びかけをし、ご利用者の希望する日や時間に合わせた支援をしています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>ご利用者の体調や希望を見極め、休息の声がけや落ち着いて眠れるよう支援しています。又、場合によっては添い寝をしたり、ゆっくりお話ししたり、温かい飲み物でリラックスして頂けるよう支援しています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>天気の良い日に近くの公園やホームの庭など外にでる機会を増やしたり、食事作りのお手伝いや買い物や外食などご利用者の希望を重視して支援しています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族の協力を得てお財布を持ってもらったり、外出先で支払う機会を作ったりしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、ご利用者の希望と体調により散歩やドライブや買い物などを日常的に行っています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や外出などご利用者の希望を聞いた上で場所決定をしたり、1度も行ったことのない所など計画して楽しんでもらうなど、ご家族にも声をかけ一緒にでかけたりしています。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望がある場合はいつでもご家族や友人に電話や手紙をだしたり、年賀状も毎年書いています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもきていただけるよう、声かけや雰囲気作りに配慮しています。面会時にはお茶等を出しゆっくりお話しする機会を作り、信頼関係を深められるよう努めています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議や朝礼や申し送り時に話しあったり、お互い確認しあったり、スタッフの共通認識を図っています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関に鍵をかけることなく、1階と2階のスタッフ同士が連携とり、見守りを強化しながら自由な暮らしを支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず全体を見通せる場所にてスタッフもご利用者と共に過ごしたり、スタッフ同士声をかけあいながら、全員の状況を把握できるよう努めています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせて注意を促したり、保管したり、ケースに応じた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっとや事故報告書をもとに事故事例検討会議の実施を行い、対応策や予防策などスタッフの共有認識を図っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救命講習を少人数ずつ受けに行き、救急手当てや蘇生についてなどを習得するようにしています。又、救急時対応マニュアルを周知徹底できるよう努めています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。非常時用の非常食も少しずつ確保しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、カンファレンスで話しあった内容なども含めて、家族に定期的に説明するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日健康チェックを行い体調の変化や様子に変化がある時は、状況に応じて受診したり、協力医に相談したりしています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬情の整理や保管を行い、スタッフで共有しています。薬の変更時は、口頭でも記録でも確認し、共有できるようにしています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分を多く取ってもらえるよう声がけし、体操や散歩などで身体を動かすよう支援している。又、協力医や看護師とも連携図り、早めに下剤調整行い、ご利用者の負担にならないよう配慮しています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯磨きや義歯洗浄やうがい等の口腔ケアは、ご利用者の状態に合わせたケアを行っています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分や食事チェックを行うことでスタッフが摂取状況を把握し、家族よりもとのご利用者の摂取量や習慣等を聞き、情報を共有しその人にあった声がけや促しを行っています。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎日、次亜塩素酸での掃除や、手洗いやうがいをこまめに行うよう声がけしたり、食事前のアルコール消毒、ペーパータオルを使用し、感染予防に対する研修等も積極的に参加し、スタッフで共有できるようにしています。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食器やふきんやまな板等を漂白し、シンクや調理器具の清潔に心がけている。冷蔵庫内の食材チェック、買出しや発注は1～2日分ずつ行い、新鮮な食材を購入し使用するよう徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	入り口付近にはベンチを置き、プランターには花を植え、通学途中の中学生等が気軽に利用してくれています。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ボランティアさんで行う季節にあった生花、季節にあった手作りの壁面装飾を取り入れたりなど、生活感や季節感を取り入れています。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングにあるソファやテーブルの配置等、入居者の意見を取り入れ、皆で楽しく過ごせる空間作りに配慮しています。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時本人と家族が相談された使いなれた家具や食器、アルバムなど持ってこられ、本人の使いやすいよう居心地よく過ごせるよう配慮しています。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日の掃除の時に各居室や共用部分の窓を開け、新鮮な空気を取り入れている。温度はご利用者の様子を見ながら調節しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>家具の配置を工夫しずり落ち防止や、危険物などがないか見直し、安全確保とご利用者の状態に合わせた環境作りに配慮しています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>わからないこと、できないことさりげなくお手伝いし、わかることや得意なことなど何ができるか、その人の状況に合わせた環境作りを目指しています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑に野菜を植え成長や収穫を楽しんだり、花を植え水やりなど一緒に行っています。玄関前や中庭にベンチを置き、日常的に自由に日向ぼっこができるような環境を作っています。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <del>毎日ある</del> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <del>ほぼ全ての家族</del> <del>家族の2 / 3くらい</del> 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <del>ほぼ毎日のように</del> <del>数日に1回程度</del> たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている <del>少しずつ増えている</del> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が <del>職員の2/3くらいが</del> 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が <del>利用者の2/3くらいが</del> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が <del>家族等の2/3くらいが</del> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 地域のボランティアがいらっしやり、ボランティア以外にも運営推進会議の参加や、焼肉パーティーなど交流する機会にも参加頂いています。  
 外部研修はもちろん、ホーム内に業者の方などを講師に招いたり、新人スタッフ研修やリーダー研修など社内研修も充実しています。  
 調理スタッフが専門的にいることで、食事は大変皆に喜ばれています。